



平成 19 年 10 月 29 日

各 位

上 場 会 社 名 ニッシン債権回収株式会社  
 代 表 者 代 表 取 締 役 社 長 合 田 益 己  
 兼 執 行 役 員  
 (東証マザーズ コード番号 : 8426)  
 問 合 せ 先 常 務 取 締 役 山 口 達 也  
 兼 執 行 役 員 経 営 管 理 部 長  
 電 話 番 号 ( 東 京 ) 0 3 - 5 3 2 6 - 3 9 7 1  
 当 社 の 親 会 社 NIS グループ株式会社  
 代 表 者 代 表 取 締 役 会 長 兼 社 長 兼 寄 岡 邦 彦  
 最 高 経 営 責 任 者  
 ( 東 証 第 一 部 コード番号 : 8571)

中間業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成 19 年 5 月 8 日に公表しました、平成 20 年 3 月期中間（平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日）の連結業績予想を、下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

また、併せて中間個別業績予想についてお知らせいたします。

記

1. 平成 20 年 3 月期中間業績予想の修正（平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日）

(1) 連結業績

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	中間純利益	1 株当たり 中間純利益
前回発表予想 (A)	18,900	2,900	2,100	1,200	1,106 円 68 銭
今回修正予想 (B)	19,900	5,000	4,400	2,400	2,207 円 18 銭
増減額 (B - A)	1,000	2,100	2,300	1,200	1,100 円 05 銭
増減率 (%)	5.3%	72.4%	109.5%	100.0%	99.4%
前中間実績 平成 19 年 3 月期中間	12,073	3,251	2,983	1,443	1,337 円 56 銭

(2) 個別業績

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	中間純利益	1 株当たり 中間純利益
前期中間実績 (A)	6,189	966	1,727	1,016	942 円 03 銭
今回予想 (B)	5,770	690	600	300	275 円 90 銭
増減額 (B - A)	△419	△276	△1,127	△716	△666 円 13 銭
増減率 (%)	△6.8%	△28.6%	△65.3%	△70.5%	△70.7%

### (3) 中間連結業績予想修正の理由

連結子会社の匿名組合出資により参加しておりました、NIS グループによる新規ビル開発プロジェクトの進捗に伴い、当初は下期に予定していた当該プロジェクトに係る匿名組合出資収益が当中間期において計上されたことを主要因として、営業収益、営業利益、経常利益、中間純利益をそれぞれ修正いたしました。なお、匿名組合出資収益につきましては、他の収益項目に比べて利益率が高いため、収益の増加率に比して利益の増加率が高くなっております。

また、個別業績につきましては、前中間期には大型案件にかかる匿名組合出資収益が計上されていたことなどから、前期実績と今回予想の減少率が高くなっておりますが、今回予想は概ね当初計画どおりに推移しております。

なお、通期業績としては概ね当初計画どおりに推移しているため、現時点での平成 20 年 3 月期（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）の通期連結業績予想の修正はありません。

当中間期の決算発表は、平成 19 年 11 月 6 日に行う予定です。

## 2. 将来予測に関する記述について

本資料には、当社グループの意図、信念、現在及び将来の予測、または連結、個別の業績、財務状況に関する経営陣の意図、信念、現在及び将来の予測に関する記述が収録されております。記載されている歴史的事実以外の将来に関するすべての記述につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測であります。かかる将来予測に関する記述は、将来の業績を保証するものではなく、潜在的なリスクや不確実性を伴うものであり、実際の業績は様々な要因により将来予測に関する記述とは大きく異なる可能性がありますのでご注意ください。

実際の業績に影響を与えうる潜在的なリスクや不確実性を伴う要因には、以下のようなものが含まれます。

- ・ 日本国内の経済環境の回復に伴う不良債権の流動化市場の収縮
- ・ 競争激化による特定金銭債権の買取価格の水準の高騰及び受託手数料の低下による利益率の下落
- ・ 回収期間の長期化による収益性の悪化
- ・ 債権管理回収業に関する特別措置法の改正
- ・ 好条件での資金調達先の有無及び金融政策等の変更による影響
- ・ 親会社である NIS グループ(株)の事業戦略及び経営成績等
- ・ 当社の利用する情報、基幹システム及びネットワークシステムの信頼性

ただし、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではなく、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響等によって、新たなリスクや不確実な要素が発生する可能性があります。

以 上